

## 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

2025 . 3. 25

法人名	社会福祉法人 苗場福祉会	代表者	湖山 泰成	法人・ 事業所 の特徴	法人：法人設立30年を経過。「より地域に密着して、より広域に」を目指し、新潟県を拠点に埼玉、千葉、群馬事業部と事業展開し大きな法人に成長している。法人の理念は「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」 事業所：住み慣れた自宅での生活が継続できるように、お客様個々のニーズにあわせサービスを提供しています。単身及び高齢者世帯が増加する中、生活の中での心配事や困り事に寄り添い在宅生活を支援できるように努めています。短時間でもご自宅で過ごせるようにご支援しています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 マロニエ	管理者	熊倉 美咲		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	3人	10人	1人	人	9人	2人	16人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	<p>①部署会議は複数回の実施やオンライン参加も導入してなるべく情報が分散しないように工夫を重ねる</p> <p>②個別の対応の強化</p> <p>③ホームページの工夫（情報開示での空き情報の更新）・広報誌発行</p> <p>④管理者とケアマネを一人ずつ配置する（令和6年4月1日より）</p>	<p>①部署会議は必ず全員が参加できるように毎月3日間、会議の時間を設けるようにしています。日にちを色分けし、大事な部分は赤字で記入しケアや業務の周知を行っています。</p> <p>②個別の対応ができるよう、日々のミーティングで個々の対応方法について話し合い検討する場を設けています。決まった内容は全職員が周知できるようにPCへ記録し申し送るようにしています。また各書類の更新を行い常に最新の状態にしておきます。</p> <p>③ホームページの工夫はできていません。広報誌については2024年度よりお客様便りを始めました。（2か月に1回の配布）</p> <p>④2024年4月より管理者：熊倉 ケアマネ：高橋 一人ずつの配置となっています。</p>	<p>（マロニエ）会議の形態は今の形で落ち着いているので複数開催は特に大変ではないですが、やはり皆が顔をみて意見を交換する場が重要ですので次年度はオンラインで会議をしてみようとおもいます。</p> <p>（地域）職員さんが頑張っているのが良く分かります。</p> <p>（家族）その都度細かいことでも報告をくれます。</p>	<p>①オンラインの会議開催（月3回⇒月1回）</p> <p>②毎日のミーティングを継続開催する</p> <p>③お便りの継続や利用者の家族とのメールでの情報共有（Eメール・SMS）の実施</p>
B. 事業所の しつらえ・環境	<p>①食席とテレビの位置や高さの工夫を実践する。</p> <p>②季節の装飾を利用者と一緒で作成する（子供じみたものにならないよう工夫）</p>	<p>①食席はいろんな方法、その時の利用者の兼ね合いで変更していますが、席へのこだわりもあり変更が難しい場合があります。</p> <p>・テレビは高くしたことで今の所「見えない」などの声はなくなりました。</p> <p>②季節の装飾は毎月ご利用者のご家族が季節の折り紙を作ってくださいるため、リースにお好きなように飾りつけをしていただき毎月飾らせていただいています。また趣味である手芸をされた作品を飾らせて頂いたり、完成した塗り絵を額に入れ飾らせていただいています。</p>	<p>（地域）季節のモノ（お雛様）と一緒に飾ってよかった。一緒に飾られてよかったです。</p> <p>（家族）朝早い送迎はテラスからの出入りができて助かります。</p> <p>（マロニエ）テラスからの出入りや散歩や日光浴もテラスから実践しています。自由な感じで環境整備が出来るように気を付けています。</p>	<p>①現在の職員が利用しているテーブルの工夫。机を追加購入し食席も工夫していく。引き続きテラスからの出入りも自由性を持ちながら環境整備していく。</p> <p>②季節の装飾を利用者と一緒で作成する（子供じみたものにならないよう工夫）</p>

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>①困難ケースの事例検討会の実施 ②地域行事をくりの木スペースを利用し開催するなど地域との合同企画の実施EX：防災訓練・煙体験・夏祭りなど</p>	<p>①困難ケースの事例検討は出来ていませんが、認知症実践者研修でのケア改善の取り組みをチームで行いました。 ②地域行事についてはくりの木祭り・認知症カフェの開催ができています。地域の方や子供たちがたくさん遊びに来てくれました。・毎年、元旦には施設の前にある神社へ利用者者と職員でお参りに行くのが恒例となっています。お参り後は地域の方が用意されている甘酒を飲むのが楽しみです。小学校だよりは小学生が手渡しで職員に渡してくれました。</p>	<p>(マロニエ) 一人暮らしの方へは、最初に家族と相談し挨拶し支援開始を伝えた。灯油の購入声掛けやゴミ捨ての支援を協力してもらっている。 (地域) 家族がいる人の方が、むりに地域と関わらない人もいますよね。 (民生委員) 小学生はエアコンと勉強とゲームがあれば集い場になるので夏休みの施設開放は勉強を見てくれる人がいると来ると思います。</p>	<p>①困難ケースの事例検討会の実施していく。 ・家族支援 1件 ・ケアの工夫 1件 ②地域のイベントの情報収集をして参加していく。</p>
<p>D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>①認知症カフェの定期開催 ②家族交流会など家族同士がケアの悩みやどのように在宅介護をしているかを意見交換できる場を作りたい</p>	<p>・認知症カフェは定期開催は出来ず、くりの木祭りでの開催にとどまった。悪天候もあり参加者のキャンセルもあった。家族同士の意見交換が出来る場も作れなかった。</p>	<p>(地域) 利用されている方とのイベントなど集まる家族来てもよい。ランチ会。1日自由に過ごす日の作成。 七夕、忘年会、などあっても良いかと思っています。 (マロニエ) 市内の高校のボランティアのパートナーシップがあるので活用していくのはどうか。 土日は施設を開放する、ボランティアやキッチンカーを呼べば沢山のひとがくるのではないか。</p>	<p>①認知症カフェの定期開催運営推進会議のあとに開催していきたいと思います ②家族との交流ができるイベント開催をしていく。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>①小学校との交流の継続 ②年に2回は認知症サポーター養成講座の開催</p>	<p>①沼垂小学校との交流は盛んに行われております。施設の仕事や認知症の方を知るといふ福祉授業での目的で小学生が学びにきてくれたり、演奏や歌を歌いに来てくださっています。 ②年に2回、小学校へ行き認知症とは何か？という授業を開催しています。(認知症サポーター養成講座)</p>	<p>(民生委員) 来年の4年生は今年より少し少ないです。また次年度も福祉授業お願いすると思います。土曜日の朝の読み聞かせは人手が足りないのでぜひ来てください。 (マロニエ) 土曜日の朝の読み聞かせのボランティアには参加していきたいです。</p>	<p>①小学校との交流の継続 ②年に2回は認知症サポーター養成講座の開催 ③土曜日の沼垂小学校での読み聞かせボランティアに参加していきたい</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>①地域参加の避難訓練の実地 ※消火器訓練 ※煙体験 ②利用者居住地区の民生委員の把握と連携</p>	<p>①地域の防災訓練は実施されていないため参加できていません。 ②1人暮らしの方の民生委員の把握はできており定期的に本人と挨拶するなど関わりができています。災害時の対応についても話し合いができています。</p>	<p>(民生委員) 令和7年9月28日紫竹馬越防災訓練です。 (マロニエ) 施設の防災訓練に地域の方も参加できるように運営推進鍵の日に合わせたり掲示板を活用して地域の方も参加してほしいです。</p>	<p>①運営推進会議での防災訓練の実施(9月) ②令和7年9月28日紫竹馬越地区の防災訓練への参加 ③利用者地域の避難先を確認し手順書へ追加していく。</p>